



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

小学1年生の黄色いランドセルカバーと中学1年生の真新しい制服に、新年度の始まりを感じる季節。「こばやしスクールサポートボランティアセンター(KSSVC)」と「小林市キャリア教育支援センター」の広報紙「てなむ」(西諸弁で「一緒に」)をお届けします。

今、市内の小中学校では、学校と地域・事業所・各種団体などが一緒になって子どもたちの学びや成長を支えるさまざまな取組を行っています。それらは、参加した大人にとっての「学びや生きがいづくり」にもなり、ひいては地域の活性化にもつながるものです。

2つのセンターでは、「てなむ」を通して学校に関わる活動や事業を紹介していきます。

紙面は、甲斐(KSSVC)と佐土原(キャリア教育支援センター)が担当します。

よろしくお願ひします。🌱🌱🌱🌱🌱

2・3月の地域学校協働活動です。(旧学年)

須木小 料理教室

4~6年生のクラブ活動



昨年到现在実施しました。講師は学校の近くにある「洋菓子工房プチパリ」のパティシエ、須木小出身の前原さん。現在は高原にお住まいで、毎日、須木に通っているそうです。

教えてもらったのはグミとマシュマロ。砂糖とゼラチンを混ぜたり、卵白を泡立てたり…。子どもたちは楽しく取り組んでいました。

前原さんのこだわりは材料に加えたゆずの果汁とゆずピール(ゆずの皮の加工品)。どちらも須木の特産品です。

さつまいもの収穫時期に「がね」(さつまいものかき揚げ)や「ねったぼ」(いもち)を、地域の方に教えてもらっている学校もあり、中央公民館の講座でも、地元の食材を使った料理教室がよく開かれています。

子どもも大人も、ふるさとに愛着をもつきっかけの一つが「地元の味」かもしれません。

📌 **学校のお手伝いをさせていただくボランティアを募集しています。特別な人だけの活動ではありません。どなたでも参加できます。詳しくは社会教育課までお問い合わせください。**



細野小 霧島岑神社の動画撮影

3年生



社会科の授業で学習した霧島岑神社について、参拝者に紹介する動画を作りました。この日は、リハーサルの後、6か所に分かれて撮影。同行したICTサポーターの上野さんにチェックしてもらい、

後日、QRコードの掲示板を設置しました。

児童の役割は演技者、ナレーター、カメラマン、メイキングカメラマン。紹介したのは…

仁王像、参道の歩き方、手水の作法、参拝の仕方などです。子どもたちの学びが、訪れる多くの方々の学びへとつながることでしょう。

神社を訪れた際は、動画もぜひご覧ください。

野尻小 ボランティア感謝集会



お世話になっている4つの団体の代表の方々をお招きしました。昨年5月の「出会いの会」はリモートでしたが、今回は、直接、感謝の気持ちを伝えることができました。



- 左から…
- 下玉利さん (見守り隊)
- 西原さん (読み聞かせ)
- 永井さん (学習支援)
- 古川さん (棒踊り保存会)

代表児童のあいさつの後、学年ごとに感謝の言葉を添えてプレゼントを渡しました。皆さんからは、毎朝の元気なあいさつ、絵本を通じた心の触れ合い、掲示している発想豊かな作品、圧巻だった運動会の棒踊りなど、さまざまな感想と喜びの声も寄せられました。

地域と学校が協力しながら子どもたちを育てていることがよく分かる感謝集会でした。

裏に続きます。

こんにちは！
小林市キャリア教育支援センターです



【キャリア教育とは】

「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。個人が社会で自立し、職業的に成功するために必要なスキルや資質を教育によって身につけることを目的としています。具体的には…

◆ 個人の興味や適性を見極め、それに合わせた教育プログラムを提供することで、子どもたちが自己決定力や問題解決能力、コミュニケーション能力、協調性、自己啓発力などのスキルを磨き、職場や社会での成功を支援します。

◆ キャリア発達を促すために、自己分析や職業探求、就職活動などについても教育を通じて学習し、子どもたちが自らのキャリアに対する意識を高めるように伴走(サポート)することも重要な役割のひとつです。

これからの時代は「情報技術やグローバル化によって生じる急激な変化が当たり前の時代」です。小林市キャリア教育支援センターは、そんな時代に必要とされる適応力や柔軟性、未来の変化に対応するための戦略や危機管理、創造性やイノベーション力(新しい技術や発想を生む力)等を育成するために、各学校からの要望に対応いたします。

【こんな活動を行っています】

昨年度実施した授業や講演会から、いくつか紹介します。(学年は旧学年)



南小 食の世界旅行

6年生



地井さん(kokoya de Kobayashi)、高岩さん(地鶏の里)、志戸本さん(CHICCA キッカ)の料理とお話を楽しみました。テーマは「食育」と「キャリア教育」。(主催:南校区まちづくり協議会)

宮崎の未来を築く「キャリア教育」講演会

お話は、細野小中出身のプロゴルファー、脇元華さん。子どもの頃の思い出やプロになるまでの道のり、将来の夢について語り、質問にも答えて、たくさんのメッセージを送っていただきました。

細野小6年生・細野中生に加え、保護者や地域の皆さんも参加しました。

(主催:細野まちづくり協議会)



小林中 デジタルシティズンシップの授業

1年生



デジタルツールを用いて、責任ある市民として社会に参加する知識や能力を育てる授業です。プライバシーの定義から始まり、スマホやネットの正しい使い方、アプリの「利用規約」などについて学びました。(講師:今度(いまだ)珠美さん(日本デジタルシティズンシップ教育研究会))

野尻中 キャリア教育シンポジウム in 野尻



2年生

小林のさまざまな職種の社会人7名をお迎えし、前半は仕事や学生時代の話、パネラー同士及び生徒との質疑応答。後半はグループでいろいろな会話を楽しみ、交流を深めました。

東方中 性教育講演会

長鶴美佐子さん:宮崎県立看護大学教授



「思春期の心とからだ」についてのお話。ご自身の体験や、大学生の手記などをもとに、思春期の自分と友だちを理解することの大切さについて分かりやすく教えていただきました。

お知らせ

【詳しくはQRコードより】



パナソニックグループが、全国の中学生を対象に無料で提供する「キャリア教育の教材提供」と「パナソニック社員の出前事業」の募集を受け付けています。各中学校のニーズに合った質の高いプログラムが無料で受講できます。

すでに市内の中学校には案内しています。



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

黄色い旗を手に、子どもたちの登校を見守る方々がいます。通称「見守り隊」。毎朝の通学路で見慣れた光景です。3月のある日、その中のお一人から、「やっと普通に言葉を交わせるようになりました」と、聞きました。一時期、大きな声でのあいさつや肩を並べての登校は控えていたそうです。学校や地域の活動も、少しずつコロナ以前に戻りつつあります。

子どもたちはさまざまな場面で、多くの大人に見守られ、育てられています。地域の方々との交流も、今後増えていくことでしょう。

昨年度、市内の小・中学校で活動したボランティアと外部指導者は、延べ21,452名。内訳は、学習支援活動3,683名、部活動指導792名、環境整備1,588名、登下校安全指導14,639名、学校行事750名でした。

学校のお手伝いをさせていただくボランティアを募集しています。詳しくは社会教育課までお問い合わせください。

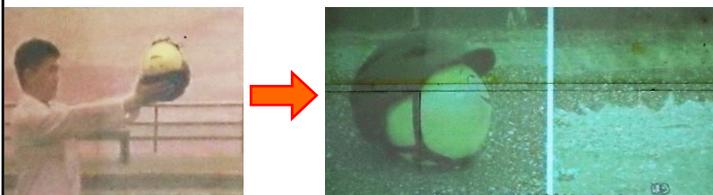
交通安全教室

大人も、「渡ります」の合図をしましょう！



4月から5月にかけて、小・中学校で「交通安全教室」が行われ、命の大切さと共に、小学校の低学年は横断歩道の渡り方、高学年と中学生は自転車の乗り方を主に学びました。

- 1 東方中(NPO法人ペダルハートきりしま: 自転車に関する様々なイベントを行っています) 2 小林小 3 須木中(小林警察署交通課・小林市交通安全協会) 4 南小(梅田ドライビングスクール) ※ ()は指導に当たった方々



「ヘルメットの効果」の動画を視聴した学校もあり、水の入った風船を落とす実験では、ヘルメットのない方は簡単に割れてしまいました。



時速40kmでの衝突実験(南小)

出会の行事

幸ヶ丘小 1年生を迎える会



メッセージが書かれた「メダル」を、上級生が2人の1年生につけてあげる「自己紹介じゃんけん」などのゲームで楽しく過ごしました。

【上級生より】困ったことがあったらすぐに言ってね。これからも、どんどん仲良くなっていきましょう。

紙屋中 新入生歓迎会



よろしくお願ひします

13名の新入生を迎え、生徒会執行部が企画して実施。専門部活動や部活動の紹介、学級ごとのあいさつの後、クイズやゲームで交流しました。

東方小・こすもす支援学校 対面式



支援学校

同じ敷地にある両校の児童が、それぞれの学級の紹介や自己紹介を行いました。(小林高校にある支援学校の5・6年生はリモートで参加) 今後、学年ごとの交流会や合同の学校行事でさらに交流を深めます。

【根井校長先生(東方小)】 みんなで一緒に取り組む交流活動が、今年もたくさん計画されています。

仲良くなるための秘訣は「相手の良いところを見つけ、笑顔でにっこり」です。

【菅(すが)校長先生(こすもす支援学校)】 あいさつをして、「あそぼう!」と、声をかけてくれるとうれしいです。

裏に続きます。

霧島岑神社の「あくまきづくり」



霧島岑神社が主催し、細野まちづくり協議会を始め、地域住民が協力して実施しました。地域の活性化と子どもたちの健やかな成長を願っての行事です。あくまきづくり体験、餅つき、獅子舞の他、宝探しやスーパーボールすくいなどのゲームもあり、細野小学校、細野保育園、日章保育園の子どもたちと保護者、地域住民など、約200名が参加して賑わいました。

小林市の魅力発信！

東方小「宮崎に誇れる東方の文化財」



両校とも、昨年度の6年生が作りました。



学習の成果をまとめ、パンフレットを作りました。内容は、オオヨドカワプロモ、二原遺跡公園、輪太鼓踊りなど、有形無形の文化財10件。いずれも写真入りで、クイズも交えて分かりやすく説明しています。 ※ 協力は井上誠二さん(社会教育課)パンフレットは中央公民館にも置いてあります。

細野小「観光パンフレット」



観光地や特産物、西諸弁など、小林市の魅力を、関係者へのインタビューも交えて紹介しています。「九州で唯一の星4つのひなもりオートキャンプ場」「口でとろけておいしいメロン・マンゴー」など、キャッチコピーも工夫した内容になっています。

※ 協力は、ハッシン!!コバヤシプロジェクト (小林市役所 地方創生課)



6年生や中学2年生が修学旅行先でチラシを配って小林のPRを行う学校もあります。地域について学び、その魅力を紹介する活動は、年々盛んになっています。

三松中 読み聞かせ

月に1度実施します。



保護者の読み聞かせサークル

8時から15分間、3学年6クラスで季節や学年に応じた絵本を読んでもいただきました。「わが子に読み聞かせた絵本を久しぶりに読みました」と、今年度、メンバーに加わった肝付校長先生。保護者の皆さんからは「真剣に聞いてくれるのでうれしいです。子どもたちから元気ももらっています」との声が聞かれました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育の充実を図るために、本市では県立看護大学と宮崎大学と連携してプログラムを提供しています。また、県立看護大学には「出張！ひむかアカデミア」事業があり、宮崎大学と本市は「包括的連携協定」を締結して、各専門分野の先生方との連携が図れるようになっています。(詳しくはキャリア教育支援センターまで)

社会が求める人材のスキルは？

デジタル化の加速度的な進展や、脱炭素化の世界潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけでなく、労働需要のあり方にも根源的な変化をもたらすことが予想されます。

日本企業は、必要とされる具体的な人材スキルや能力を把握し、シグナルとして発することができているか。そして、教育機関はそれを機敏に感知し、時代が求める人材育成を行うことができているのか。(経済産業省HPより)

このような問題意識の下、経済産業省は、2050年の産業構造の転換を見据えて「未来人材会議」を設置しました。その中で話し合われた「社会が求める人材のスキル」を紹介します。

【2015年】 ◆ 注意深さ・ミスがないこと ◆ 責任感・まじめさ ◆ 信頼感・誠実さ ◆ 基本機能(読み・書き・計算等) ◆ スピード 等

【2050年】 ◆ 問題発見力 ◆ 的確な予測 ◆ 革新性 ◆ 的確な決定 ◆ 情報収集 等





地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

南小 学習支援



南小では、保護者と地域住民のボランティア9名が、交替で学習の支援をしています。皆さんが参加したきっかけは、「子どもたちと関わりたい」「先生方の変り様がよく分かるので、子どもたちと向き合う時間を少しでも増やしてほしい」との思いから。「私たちにできることは任せてもらい、先生方にしかできないプロの仕事の誇りをもってしてほしいです」という願いも聞きました。

また、活動を通して何よりも感じているのは自分自身の「喜び」や「生きがい」だそうです。子どもたちとの触れ合いを通して得られることがたくさんあることでしょう。

「私たちの他にも、学校のお手伝いがしたいと思っている方はたくさんいらっしゃると思います。広報紙でもっと紹介してください」と、背中を押されました。

① 蒔苗(まかない)さん：元小学校の先生。2年生の教室で、子どもたちと楽しく話をしながら算数のプリントの点検をされていました。②③ 岡村さん・井手口さん：保護者。プリントやノートのまる付けをされていました。

④ 奥名さん：⑤算数の教材を制作中でした。

【皆さんのひとこと】 ◆ 子どもたちから元気もらっています。 ◆ 参観日以外の子どもの様子がよく分かります。 ◆ 小学生がどんなことを学習しているのかを知ることができ、参考になります。 ◆ 細かな作業もありますが楽しく仕事をさせてもらっています。

【南小 児玉校長先生】ボランティアの皆さんには感謝しています。主に学習支援で助けていただいています。多くの方に見守っていただくことは、子どもたちを理解することに加え、安全・安心にも繋がると思います。

学習支援ボランティアは野尻小や栗須小でも活動しています。活動を考えておられる方は、こばやしスクールサポートボランティアセンターまでお問い合わせください。

ボランティア集会(野尻小・栗須小)



野尻小(左)と栗須小(右)のボランティア集会です。見守り隊や読み聞かせ、学習支援など、各団体の代表の皆さんと顔を合わせました。

ボランティアの皆さんからは、子どもたちと活動することの喜びや感謝の言葉がたくさん聞かれ、学校への支援活動が皆さんの生きがいになっていると感じました。

紙屋小 1・2年生

さつまいもの苗植え



小雨の中、傘をさしかけてもらったの苗植えです。校内の「わくわく農園」に紅はるか高系14号の苗を植えました。

【感想より】 ◆ 棒で押すのが楽しかったです。 ◆ 教えてもらって上手にできました。

◆ おいもが早く大きくなって、早く食べたいです。

幸ヶ丘小 1~4年生



1~4年生の6名で、校内の「子ども農園」に60本近くの紅はるかを植えました。畑と苗は保護者が準備。途中で様子を見に来られ、いもの育ち方を教えてくださいました。

永久津小・中 田植え



6月下旬の梅雨の晴れ間、5年生と中学生約40人がもち米の苗を植えました。永久津地区体育館から歩いて10分ほど、かくれ念仏洞近くの田んぼです。田植えが初めての小学生は、中学生や地域の方に教えてもらいながらだんだん上手に、中学生は慣れた手つきで次々と植えていきました。

収穫の秋には、合同で稲刈りをします。

裏に続きます。

細野中 図書館オリエンテーション

1年生



市立図書館の川野さんを迎え、「授業に役立つ図書館の活用法」をテーマに、2クラスで実施。本を探す際には「並び方を知る」「何を探したいのか整理する」ことが大切というお話の後、日本十進分類表を用いて本を探す方法と図書室の本の並びを確認しました。

いろいろな本の紹介や、本とタブレットの良さを生かした正しい使い方のお話もあり、生徒たちはメモを取りながら熱心に聞いていました。

【本の紹介:「5文字で百人一首」より】

春すぎて 夏来(き)にけらし 白妙(しろたへ)の衣(ころも)ほすてふ 天(あま)の香具山(かぐやま) ⇒ **洗濯日和だ**

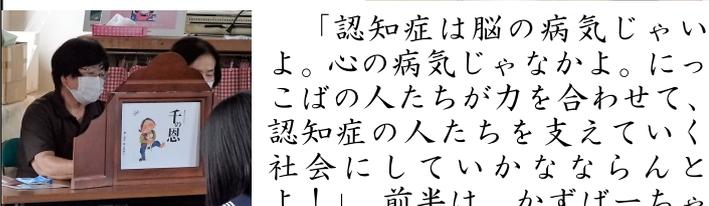
【お礼の言葉】 分類のことがよく分かりました。教えていただいたことを参考に、本を探してみたいです。

西小林中 認知症サポーター養成講座



3年生

タブレットで意見をまとめます。



「認知症は脳の病気じゃいや。心の病気じゃなかよ。にっこばの人たちが力を合わせて、認知症の人たちを支えていく社会にしていかならんとよ!」。前半は、かずばーちゃんのお話。軽妙な西諸弁で、認知症について分かりやすく教えてくださいました。

後半はグループでの話し合い。「徘徊して迷子になってしまう」とか「ご飯を食べたことを忘れる」などの事例についてグループで声のかけ方などの対応を話し合い、発表しました。

最後は、認知症サポーターのお二人による紙芝居「千の恩」。認知症の母親の介護に疲れ、施設に移そうと考えた娘でしたが、孫を見て喜ぶ母の笑顔に心が変化していく物語です。

【お礼の言葉】 教えていただいたことを生かして、お年寄りに声をかけたいと思います。

【指導者の皆さん】 ◆ 小倉和也さん(和福祉サービス) ◆ 小林市西部地域包括支援センター ◆ 認知症サポーター ※ 終了後、オレンジリングをいただきました。

こんにちは! 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション



TENAMU交流スペース



「真のキャリア教育を考える」トークセッションの3回目。講師は瀧口尚志さん(小林秀峰高校教諭)。地域に密着した秀峰高校の探究活動の説明と、生徒が制作に関わった小林市の紹介動画について話をしてくださいました。

その後、参加した20人ほどが4~5人ずつに分かれてのグループトーク。小林のキャリア教育の現状と課題について語り合いました。

第4回(6月29日)は中村仁さん(小林西高校教諭)。調理科「高校生の三つ星レストラン」、総合ビジネス科「企業での長期インターンシップ」、普通科「総合的な探求の時間のプロジェクト」など、特色のある取組のお話が聞けました。

今後も月に1度、夜、開催します。キャリア教育に関心のある方はどなたでも参加できます。



三松中 社会人の声を聞く会

3年生



7名の方に来ていただき、今の仕事に就いたきっかけ、仕事の内容、やりがいなどを話していただきました。生徒は4つのブースを20分ずつで回り、質問やフリートークで交流しました。

大人の話は、失敗体験も含めて、生徒が視野を広げ将来への見通しをもつきっかけになります。今回の授業は、一人ひとりが自分自身と向き合う貴重な時間になったことでしょう。

【講師の皆さん】 ◆ 富永征駿さん(社長業:牛商丑力) ◆ 外山れなさん(ANAキャビンアテンダント) ◆ 池上翔さん(映像クリエイター) ◆ 坂口和也さん(社会福祉法人ときわ会施設長) ◆ 古川美好さん(グローバルリーフ管理薬剤師) ◆ 比志島隆太さん(Uターン起業家:CHILK) ◆ 八重尾恵美さん(ホームハーモナイザー:建物の診断・カラーコーディネート・整理整頓のアドバイス)



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121



6月に、「紙屋いきいきサロン」の皆さん6名と紙屋小の1・2年生が七夕飾りを作りました。

この活動は10年以上続いており、今年も、地域の皆さんがたくさん飾りを1年かけて準備してくださいました。「作るのが

好きですし、子どもたちとの出会いをとっても楽しみにしています」とのこと。「もうすぐ来年の分を作り始めます」と笑って答えてくださいました。(写真は2年生)



地域と学校の協働活動を充実・発展させることが、子どもたちの学びや成長を支え、地域づくりに繋がります。期待される効果としては次のことが考えられます。

【学校では】

- ① 学校の教育活動の充実
- ② 学習に対する子どもの興味・関心や意欲の向上
コミュニケーション能力の向上
- ③ 地域に愛着をもち、地域に貢献したいと考える人材の育成
- ④ 教職員が子どもと向き合える時間の増加
- ⑤ 地域と共にある学校づくり



【地域では】

- ① 地域住民の社会参加の広がり
- ② 地域住民の生きがいづくりと自己実現
- ③ 地域課題の解決に向けた活動の充実
- ④ 地域の教育力の向上と地域の活性化
- ⑤ 学校と子どもたちへの地域住民の理解の深まり



学校と地域は、どんな子どもに育て、どんな地域を創っていくのかを一緒に考えるパートナーです。



西小林小 畦(あぜ)づくり

5年生



協力はJA青年部
PTA環境整備部

機械での畦づくり

市内のいくつかの小・中学校で米作りが行われており、これから収穫の時期を迎えます。ここでは、西小林小の5年生が田植えの前に体験した「畦づくり」を紹介します。

これは、田んぼの中の泥土を盛り、水が外に漏れないようにする作業です。今では機械を使いますが、昔の米作りを学ぶ意味もあり、毎年、5年生が手作業で行っています。子どもたちは、大人に教えてもらいながら、クワやスコップを使って、田んぼの1辺に泥を積み上げていきました。機械での作業も見学し、畦づくりの難しさと機械のすごさを同時に感じた1時間でした。

【お礼の言葉】大変でしたが楽しかったです。みなさんの協力のおかげで早く終わり、感謝の気持ちでいっぱいです。

数日後、5・6年生がもち米の苗を植えました。

霧島岑神社 六月燈



- ① 細野まちづくり協議会が呼びかけ、細野小・中・保育園などから、たくさんの絵が寄せられました。
- ② (6月30日の昼休み) 細野小の児童が地域の方と一緒に、灯ろうに絵を貼りました。
- ③ (六月燈当日) 参道は約100個の灯ろうで照らされ、境内では巫女の舞や鼓囃太鼓、屋台や縁日もあり、大勢の人で賑わっていました。

須木中 農業体験学習

どちらの班も昼食の準備中でした。



Sano Farm(南崎さん)

ねむの花咲く宿(谷山さん)

須木中の全校生徒がえびの市と高原町の5軒の農家で、地域の散策や野菜の収穫、昼食づくりなどを体験しました。農業体験学習はスポーツ振興課と北きりしま田舎物語が行っている事業。農業や食、命の大切さを学ぶことが目的です。今年度も数校の中学校が実施します。

裏に続きます。

三松小・中 交流学習

小学1年生と中学3年生が交流しました



1年生に楽しんでもらえるよう、中学生がいろいろな遊びやゲームを考え、準備してきました。内容はトランプ・折り紙・読み聞かせ・鬼ごっこ・ドッジボールなど。いくつかのグループに分かれ、約1時間半、楽しく過ごしました。小中連携の取組として、毎年行われています。

小林小 租税教室

講師は小林税務署と小林法人会の皆さん約20名



山下さん(小林法人会青年部)



① 6年生



税金のない世界を描いたアニメの後、山下さんが税金の種類と役割について説明してくださいました。後半は街づくりのワークショップ(税金の有効な使い方を考えるシミュレーションゲーム)。どんな街をつくるのかを話し合いながら、予算の範囲内で、学校や病院、公園などを整備しました。

【チームのテーマより】 ◆安全で暮らしやすい街 ◆自然豊かな町 ◆老人に優しい町 ◆人に優しく楽しい町 ◆観光地になる町 ※大人も入り、17チームで行いました。

① 税務署長の石原さんにプレゼンをしたチームも…。その際、税務署の仕事聞き、「税務署員になろうかな～」と言った児童もいました。② 学級の代表3チームが発表。施設のシールを貼った地図を見せて説明しました。

手話の学習

小林中 3年生



講師は手話通訳者派遣協会と「木の実会」の皆さん

4クラスに2人ずつ講師が入り、聞こえない人の生活、伝える方法、簡単な手話、私たちにできることなどを学習しました。後半は、指文字を使っての自己紹介を練習し、発表しました。

中には、手話サークルで学んでいる生徒もあり、上手な発表に講師の方も感心していました。

【講師のお話より】聞こえない人は、日常生活で手話通訳者に頼ることが多いです。みなさんの中から、将来、手話のできるお医者さんや看護師さん、公務員が出てきてくれるとうれしいです。

裏に続きます。

野尻中 3年生



口の動きが分かるようにマスクを外しています。

野尻手話サークルの皆さん8名が来校。生徒たちは、あいさつなど、簡単な手話を学んだ後、指文字を使った自己紹介を練習しました。その後、代表数名が、聴覚に障がいがある方に自己紹介。全員が上手に伝えることができました。最後は手話歌「糸」を全員で歌いました。

【お礼の言葉】手話と一緒に声を出すことが大事だということ学びました。帰ったら、家族でやってみたいと思います。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



TENAMU交流スペース

「キャリア教育トークセッション」の5回目です。講師は塚田一久さん(小林高校教諭・探究科学コース主任)。娘さんに「コバ高は勉強ばかりなんでしょ！」と言われてショックを受けた話から始まりました。



【主な内容】 ◆ 学校紹介(進路の状況等) ◆ キャリア教育とは？

◆ 探求科学コースの特色:「ハイレベル学習で学力を・キャリア教育で将来のビジョンを・探究活動でコミュニケーション力を」、「新しいものを生み出す力、何事にも挑戦する力を」 ◆ 探求科学コースの生徒の変容(身に付けた能力) ◆ 生徒の意識調査の結果(学校の満足度91.6%・学校生活全体の充実度94.7%)

その後はグループトーク。参加者それぞれ的小林高校の思い出や印象に加え、「勉強ばかり」というイメージを払拭するためには積極的な情報発信が不可欠との意見も出されました。

てなむ

回覧



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

「名水百選」に選ばれた出の山湧水を有する「出の山公園」や「残したい日本の音風景百選」に選ばれた櫓の轟(やぐらのとどろ)が見られる「三之宮峡」など、水を観光資源とする観光地も多くある小林市...

(小林市公式ホームページより)



昨年5月、「ホタルの授業」で出の山公園を訪れた南小3年生(現在の4年生)

地域について学んでいる多くの小・中学生が、「小林の魅力」として挙げるものの一つが「水」です。霧島連山の恵みから生まれた水は、上水道や田畑、淡水魚の養殖などに利用される他、私たちの目を楽しませてくれています。

今年の夏、授業とは別に小林の水について学んだ子どもたちがありました。

水質・水中生物調査



社会教育課の呼びかけに応じて集まった「霧島・小林探検隊」のメンバーが、夏休みに水質と水中の生物調査を行いました。参加したのは市内の小学6年生4人。保健所の方に教えてもらいながら薬品を使って水質を調べた後、川の中にどんな生き物がいるのかを調べました。

場所はかくれ念仏洞近くの永久井野川。水は冷たく、検査の結果はとてもきれいな水質でした。「霧島・小林探検隊」は、学校を通じて参加者を募集しています。

【協力】小林市生活環境課・小林保健所
小林市子ども会育成連絡協議会



心肺蘇生法講習会



放課後子ども教室のコーディネーターとサポーターを対象とした講習会が中央公民館で行われ、市内5つの教室から18名が参加しました。

講師は中央消防署員。参加者は2つのグループに分かれ、AEDを利用した救命処置の手順を、実技を通して学びました。

東方小・こすもす支援学校 ふれあい交流



5年生

両校では、学年ごとの交流会を、年に2回ほど実施しており、今回は5年生がじゃんけんゲームで交流を深めました。運動会を始め、一緒に行う学校行事もたくさんあり、今年度からは、時々、清掃も一緒にしています。

このような交流を通して、子どもたちは、相手を理解し、自分を知り、互いに学び合っています。

野尻小 棒踊りの練習

5・6年生



ALTのダレン先生(ジャマイカ出身)も興味津々でした。

5年生は、棒踊りが受け継がれてきた歴史や、踊りに使う衣装や道具について事前に学習して臨みました。練習では、東麓新地馬場棒踊り保存会の皆さんから、手足の動きやかけ声、間隔のとり方などを丁寧に教えてもらいました。

裏に続きます。



東麓地区では、戦争で中断していた棒踊りを、戦後、住民が再生し、平成10年から野尻小の子どもたちに教えるようになりました。毎年、5・6年生が運動会で披露しています。

紙屋中 SDGs 講演会



講師は難波裕扶子(なんばゆうこ)さん。(株) シンク・オブ・アザーズ代表取締役

(難波さんのお話より) キーワードは「私たちの世界をつくり変える」。そのためにも、地球規模で学び考えましょう。日々の生活の中、身近な地域社会で行動を起こし、私たちひとり一人が中心となり変化を起こすことが大切です。服を選ぶときにも、それを作っている人たちのことも考えてみましょう。大人だけでは目標は達成できません。皆さんの力が必要です。

お話の後はカードゲーム。SDGsのゴールが書かれた17枚のカードを、大切だと思う順番に並べます。それから、説明役の1人を残してメンバーは他のグループへ移動。残った説明役が新しく来たメンバーに、自分たちの考えを説明しました。

【お礼の言葉】SDGsを続けることで地球の環境が変わることを知りました。できることをやっつけようと思います。

【SDGs】2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

須木小 SUP 体験 (クラブ活動)

4~6年生



4年生以上がカヤックとSUP(スタンドアップ・パドル・ボード)を体験しました。場所は「かじかの湯」から5分ほど下った小野湖です。

すきむらんの4名のインストラクターに、パドルの使い方を教えてもらった後、早速、体験。初めての子どもたちもいましたが、すぐに上手になり、SUPを立ち漕ぎしたりして楽しんでいました。須木小では、地域の資源を生かした活動として、毎年行っています。(昨年はコロナで中止)



こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



「こばやし・てなむで学びの1週間！」(キャリア教育編)を8月5日から8月10日まで、TENAMU交流スペースで実施しました。

映画上映「夢みる小学校」



教育の在り方を問い直すドキュメンタリー映画。私立の「きのくに子どもの村学園」、公立の「伊那市立伊那小学校」、

「世田谷区立桜丘中学校」。それぞれ校風も授業内容も異なりますが、「子どもファーストな学校」という共通項があります。楽しくなければ学校じゃない、宿題がない、テストがない…。学校のイメージが変わる映像が満載でした。

小学生起業家ふーちゃんとおはなし会



古着循環ビジネスを手掛けるふーちゃん(東京都の小学6年生)と、20数名の親子が語り合いました。前日には、古着を用いたSDGsワークショップも行いました。

読み聞かせ



保育園児と小学生、約40名が参加。「読み聞かせ」連絡協議会の皆さん4名が、手あそび歌などのゲームをはさみながら、いろいろな絵本を読んでもらいました。

高校生寺子屋テナム



小中学生を対象にした小林高校生による学習会。台風の影響で6回の予定が4回になりましたが、各2時間の学習会に、多い時には十数名が参加して、勉強を教えてもらいました。

教師を目指している高校生もいて、教えることの楽しさや難しさも感じたようでした。

多様な性を理解する学習会



講師は黒木瑞季さん。(宮崎県男女共同参画地域推進員) 講演等で、女の子として生まれ、男の子として育てられたご自身の生き立ちを語り、性の在り方への正しい理解を広める活動をしています。